

## インターバンクの声（2015年10月8日）

日銀の僅かな追加緩和の可能性に賭ける市場参加者がいないこともなかったが、昨日の日銀会合は想定通り現状維持の決定。黒田総裁の記者会見もいつも以上に淡々とした受け答えに終始し、結局は近い時期の追加緩和を匂わせることもなく、市場はやや落胆の円買いという反応だった。ドル円の値動きが限られる中で、多少なりとも盛り上がったのが、ドイツの鉱工業生産の低調さを嫌気して下げたユーロや、英ビール会社のベルギーの飲料大手による買収話や英中銀理事会前日のポジション調整で動いたポンド相場だった。ユーロもポンドも日米金融当局と同様、年末から年始にかけての金融政策が変更されるとの見方も広がり始めているだけに、今年これまで苦戦続きと言われる米ヘッジ・ファンド勢の最後の奮闘時期も重なり年末の為替相場は波乱となるかも知れない。ここ一週間静かだったアジア市場も今日から中国市場が再開される。まずは上海総合指数がどんなスタートになるか注目だ。

---

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。